

第2章 本市の概況

1. 広域的位置付け

本市は、茨城県東南部に位置し、東京から約 80km、県都水戸及び筑波研究学園都市から約 50km という距離にあります。

本市・東京間は J R 鹿島線，東関東自動車道（東関道）でいずれも約 2 時間，空の玄関である成田国際空港とは東関道で約 30 分，茨城空港とは車で約 1 時間の距離で結ばれています。

東に鹿島灘，西に北浦を臨み，中央部は海拔 40m の鹿島台地，低地部は田園地帯や鹿島港と連携した工業地帯が広がっています。

面積は 106.02km²で，鹿島灘沖を流れる海流の影響を受け，年平均気温（平成 22 年（2010 年））15.3℃と，四季を通じて温暖な海洋性の気候に恵まれています。

北側に鉾田市，西側に潮来市，南側に神栖市と隣接しています。

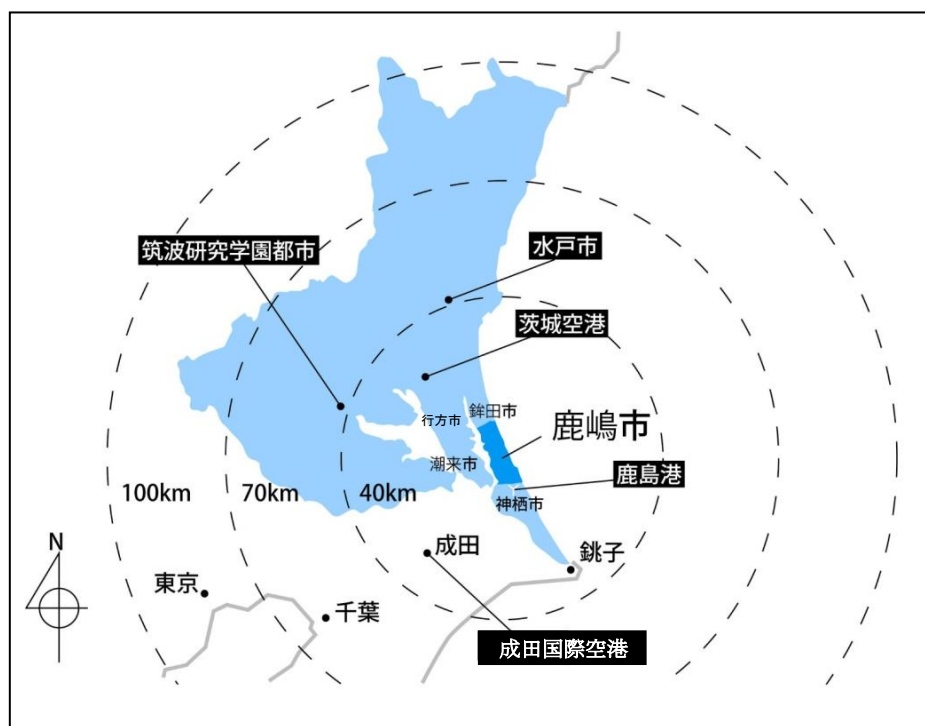


図 2-1 鹿嶋市の位置

出典）第三次鹿嶋市総合計画

2. 歴史・環境上の特性

(1) 歴史・文化資源

鹿嶋の地では、約 12,000 年以上前から人々が暮らし始め、縄文時代には、北浦沿岸の豊かな自然の恵みの中で^{くりやだい}厨 台遺跡群などに見られる大集落が営まれました。

鹿嶋の地に古くから鎮守する鹿島神宮は、大和朝廷の成立以降、関東や東北地方進出の一大拠点として重要な位置を占めるようになり、その後藤原氏の氏神として、朝廷及び豪族の厚い信仰の対象となっていました。

明治時代に入ると、鹿島郡は、廃藩置県により当初は新治県、後に茨城県の区域に編入されます。

第二次世界大戦後は、昭和 28 年施行の町村合併促進法により、昭和 29 年には 1 町 4 か村が合併して鹿島町になり、昭和 30 年には 2 か村が合併して大野村となりました。

昭和 30 年代の高度成長期に入り、鹿島臨海工業地帯造成計画が発表され、昭和 37 年から対象地区約 2 万ヘクタールの開発に着手し、臨海工業地帯として急速に発展していきました。

平成 3 年に創設された J リーグに鹿島アントラーズが加盟を果たし、J リーグ最初のステージ優勝の栄冠を手にしたことで、「カシマ」の名は全国区となりました。

平成 7 年には、鹿島地域の更なる発展をリードする県東南部の中心都市の形成を目指し、鹿島町と大野村が合併し、同日「鹿嶋市」として新たな出発をしました。

(2) 自然環境

市内には、鹿島灘、北浦などや、鹿島神宮樹叢や斜面緑地の豊かな緑、多様な野生生物の生態が残されています。

ハマナスの自生南限地帯は大正 11 年に国の天然記念物に指定されています。また、小山不動自然環境保全地域（小山地区）、唐臼緑地環境保全地域（武井地区）、沼尾緑地環境保全地域（沼尾地区）の 3 箇所は、県の自然環境保全地域及び緑地環境保全地域に指定されており、自然保護指導員が巡視を行っています。鹿島神宮樹叢は県の天然記念物に指定され、北浦沿岸や鹿島神宮は水郷筑波国定公園に指定されています。

3. 社会状況

(1) 人口

① 人口と世帯数の推移

本市の人口は平成 27 年現在，約 6.8 万人となっており，昭和 60 年以降，緩やかな増加傾向が続いていますが，近年は人口増加の伸びが小さくなっています。

世帯数は平成 27 年現在，約 2.7 万世帯となっており，増加傾向が続いています。

年齢 3 区分人口の割合は，15 歳未満の減少傾向が続く一方，65 歳以上は増加しており，少子化と高齢化が顕著に表れています。15～64 歳は平成 7 年をピークに減少に転じています。

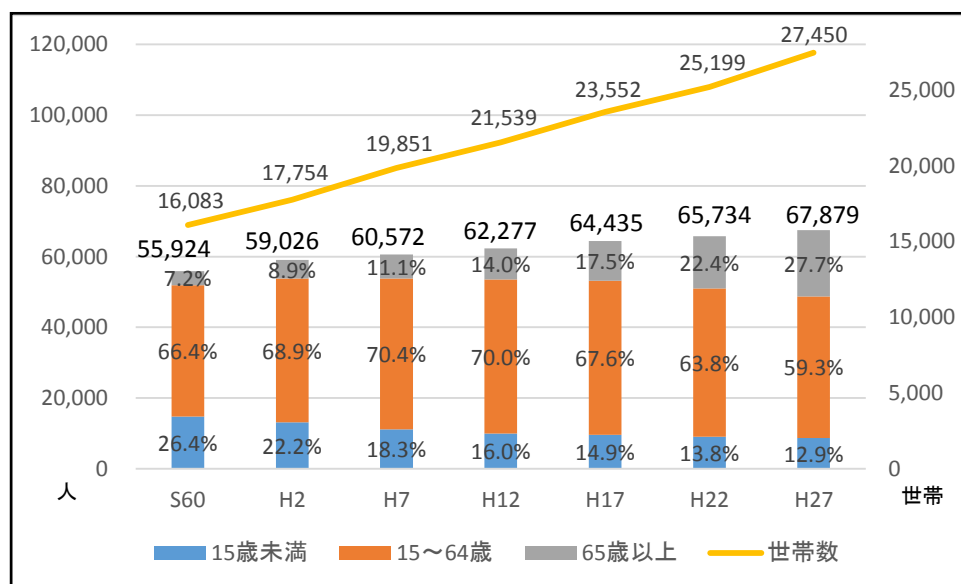


図 2-2 人口と世帯の推移

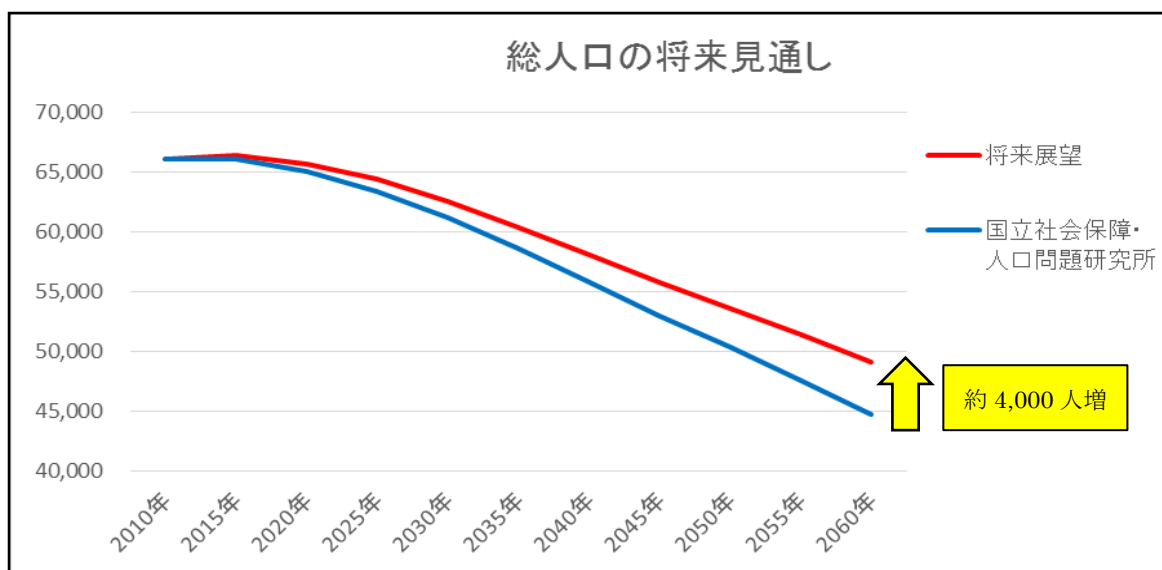
出典) 各年国勢調査

② 将来人口の予測

将来人口予測については，国立社会保障・人口問題研究所の推計によると，平成 72 年（2060 年）の本市の人口は 44,784 人となっています。

市では，雇用の創出や移住・定住の促進をはじめとした施策展開により，合計特殊出生率^{※3}と社会増^{※4}を増やすことで，平成 72 年に 5 万人程度の人口を維持することを目標としています（鹿嶋市人口ビジョンによる）。

短期的な人口予測としては，鹿嶋市人口ビジョンによる平成 32 年（2020 年）の人口は 65,750 人と推計されています。



	2010 年 実績値	2020 年	2030 年	2040 年	2050 年	2060 年
将来展望	66,092	65,750	62,613	58,111	53,605	49,110
国立社会保障・ 人口問題研究所	66,092	65,128	61,196	55,809	50,326	44,784
差	0	622	1,417	2,302	3,279	4,326

※単位: 人

図 2-3 将来人口予測

出典) 鹿嶋市人口ビジョン

○合計特殊出生率を向上・維持し、かつ社会増を増やすための施策に取り組み、2060年に人口5万人程度を維持する。

○しかし、現状から比べると1万7千人程度減少することとなり、人口減少に対応するための取組みが求められる。

(2) 人口分布

① 全人口の分布

平成22年時点の人口分布を500mメッシュで確認すると、本市の中心市街地が形成されている鹿島地区(市の南東部)において人口密度が高い地域がみられます(図2-4の500人以上の区分、1ヘクタールに換算すると20人以上)。

市の南東部を除くと、1ヘクタール当たり20人未満の人口密度であり(図2-4の499人以下の区分)、海岸沿いや鹿島臨海鉄道大洗鹿島線西側などでは1ヘクタール当たり4人未満の分布も広がっています。

こうした傾向は平成42年も同様であり、人口密度が高い地域は平成22年時点より広がることが予測されています(図2-5)。

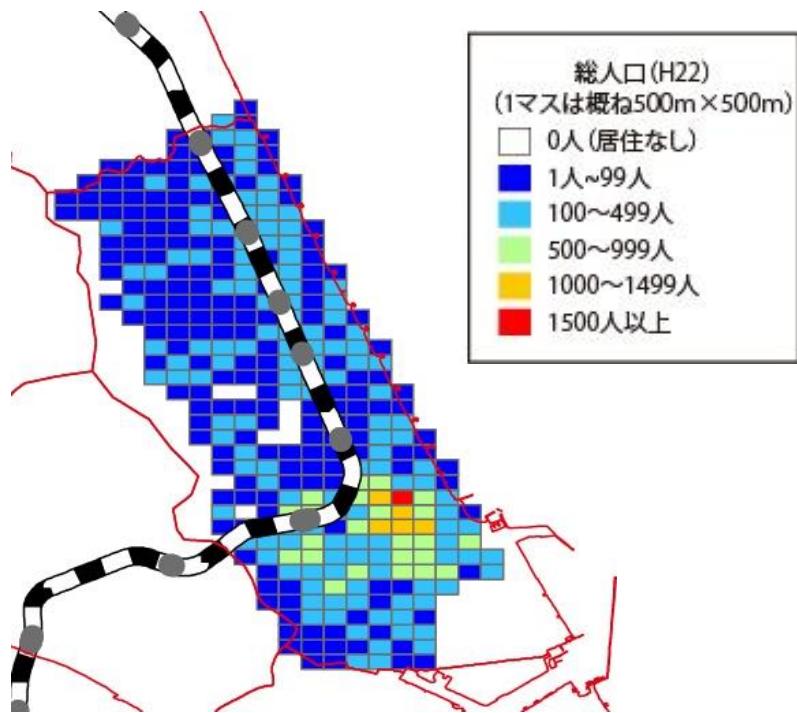


図 2-4 人口分布 (平成 22 年)

出典) 国勢調査

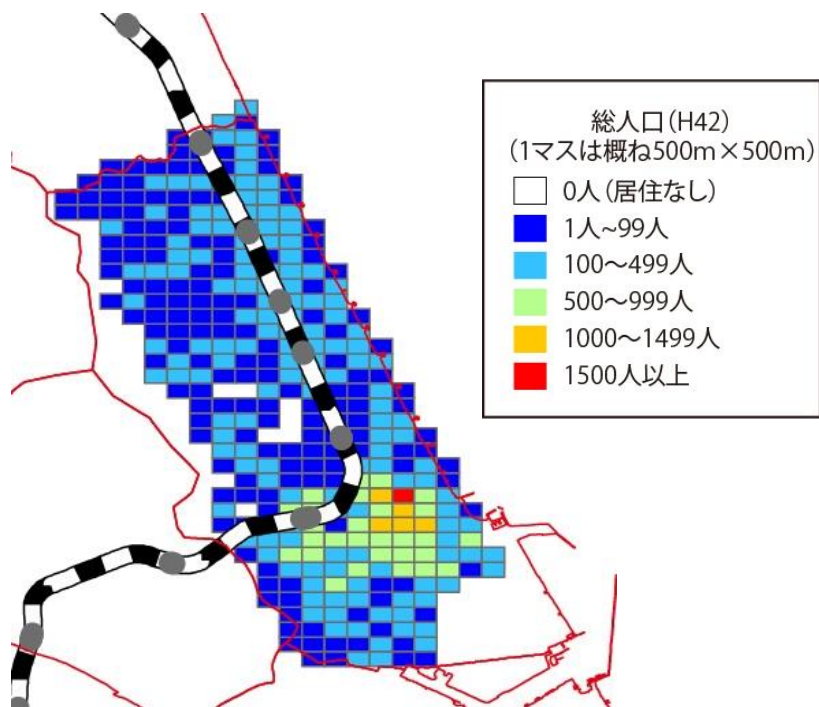


図 2-5 人口分布 (平成 42 年)

出典) 国勢調査を基にコーホート要因法^{※5}により推計

② 65 歳以上人口の分布

平成 22 年時点の 65 歳以上人口分布を 500m メッシュで確認すると、本市の中心市街地が形成されている鹿島地区（市の南東部）において人口密度が高くなっています（図 2-6 の 100 人以上の区分、1 ヘクタール当たりに換算して 4 人以上）。鹿島大野駅周辺など大野地区にも同様の分布が見られます。

平成 42 年は 65 歳以上の人口密度の高いエリアはさらに広がると予測されています。平成 22 年から平成 42 年にかけての人口密度の広がりとは、全人口より 65 歳以上人口の方が顕著にみられます（図 2-7）。

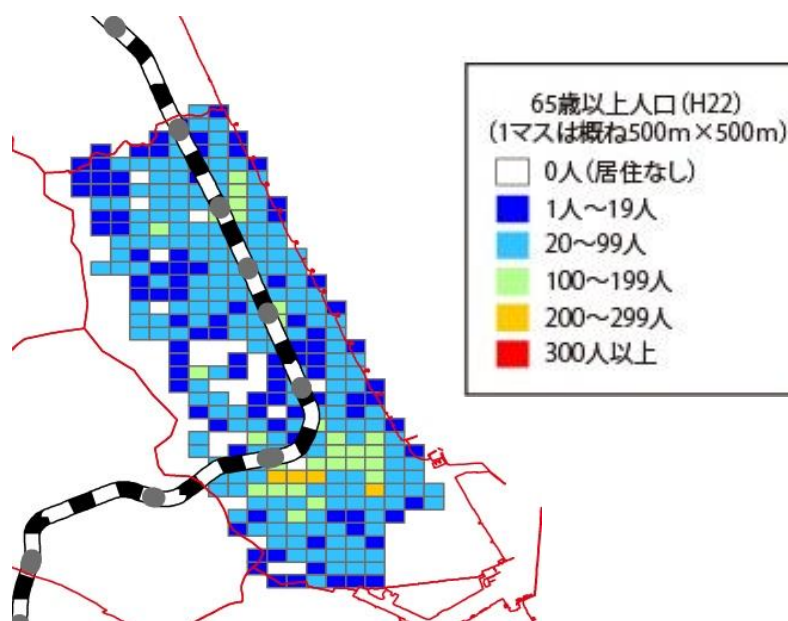


図 2-6 65 歳以上人口分布（平成 22 年）

出典）国勢調査

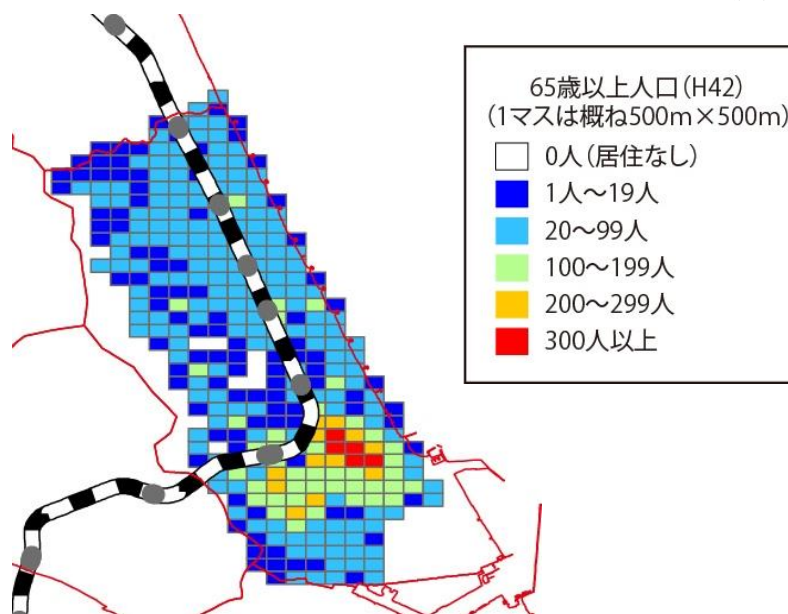


図 2-7 65 歳以上人口分布（平成 42 年）

出典）国勢調査を基にコーホート要因法^{※5}により推計

(3) 産業

① 産業別人口比率

本市の平成 22 年における産業別就業人口割合は、第一次産業が 2.9%，第二次産業が 32.6%，第三次産業が 59.2%となっており，茨城県全体と比較すると第二次産業の就業割合が高くなっています。

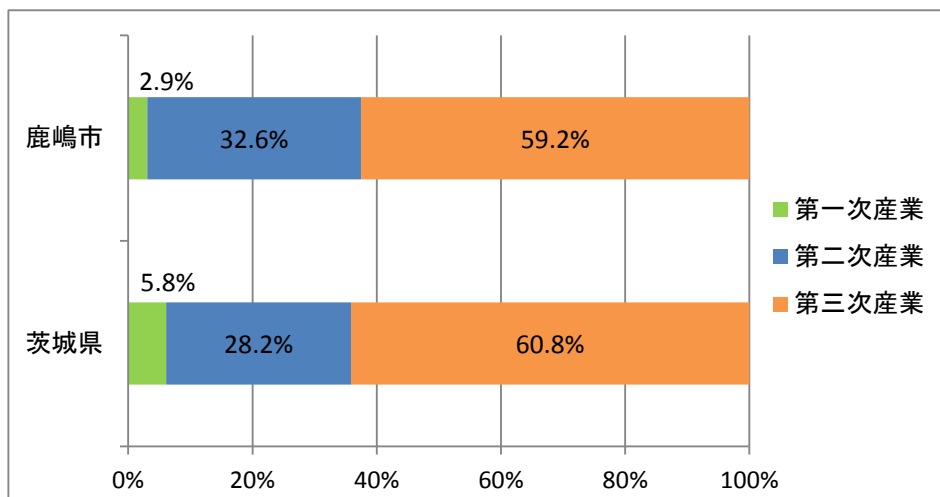


図 2-8 産業別就業人口割合（平成 22 年）

出典）国勢調査

② 商業、工業の推移

本市の年間商品販売額は平成 26 年現在 1,146 億円で，平成 16 年以降減少の傾向となっています。

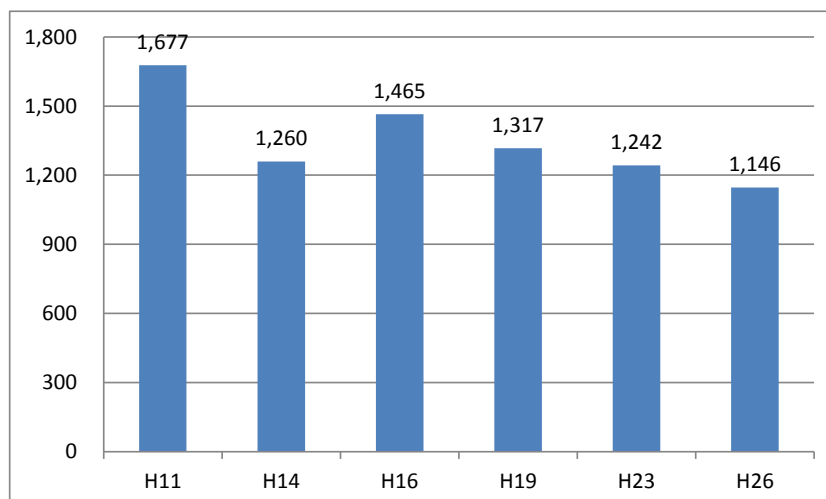


図 2-9 年間商品販売額の推移（億円）

出典）商業統計調査（平成 23 年は経済センサス活動調査）

本市の製造品出荷額等は平成 26 年現在 8,233 億円で、東日本大震災以降の一時的な落ち込みはあったものの、平成 12 年以降増加傾向が続いています。

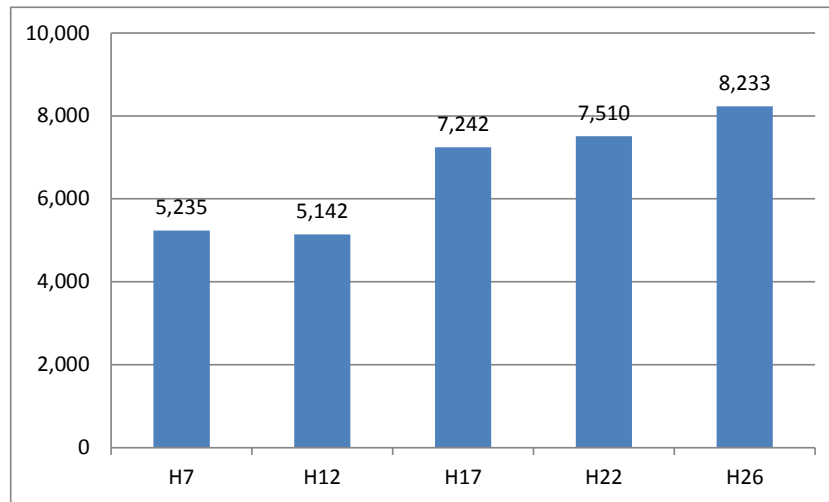


図 2-10 製造品出荷額等の推移（億円）

出典）工業統計調査

（４） 土地利用

本市は、東は鹿島灘、西は北浦に面した、南北に細長い地形となっています。

南部には市街地が広がり、住宅のほか、市役所をはじめとした公的機関、商業施設などが集まり、本市の居住や都市サービスの中心的な役割を担っています。

市街地中心部には年間 180 万人の参拝客が訪れる鹿島神宮、市街地の北隣には鹿島アントラーズのホームスタジアムであるカシマサッカースタジアムが位置しています。

南東端には、昭和 30 年代後半からの鹿島臨海工業地帯の開発による産業集積があり、本市のみならず、茨城県の産業を牽引しています。

海岸沿いや北浦沿いの低地、国道 51 号や県道 242 号鉾田鹿嶋線沿いをはじめとした台地上には、農業集落が点在しています。また、大野地区を中心に、東京都などからの移住者が暮らす住宅地も見られます。

農地の分布としては、北浦沿いの低地には水田が、台地上には畑が広がっています。台地と低地の境界付近を中心に、まとまった山林も広がっています。

以上のように、本市は都市機能が一極型に集中しているとともに、居住地は市街地ならびに郊外の集落に点在した都市構造となっております。また、観光、工業、農業が市内に併存する産業形態が特徴と言えます。

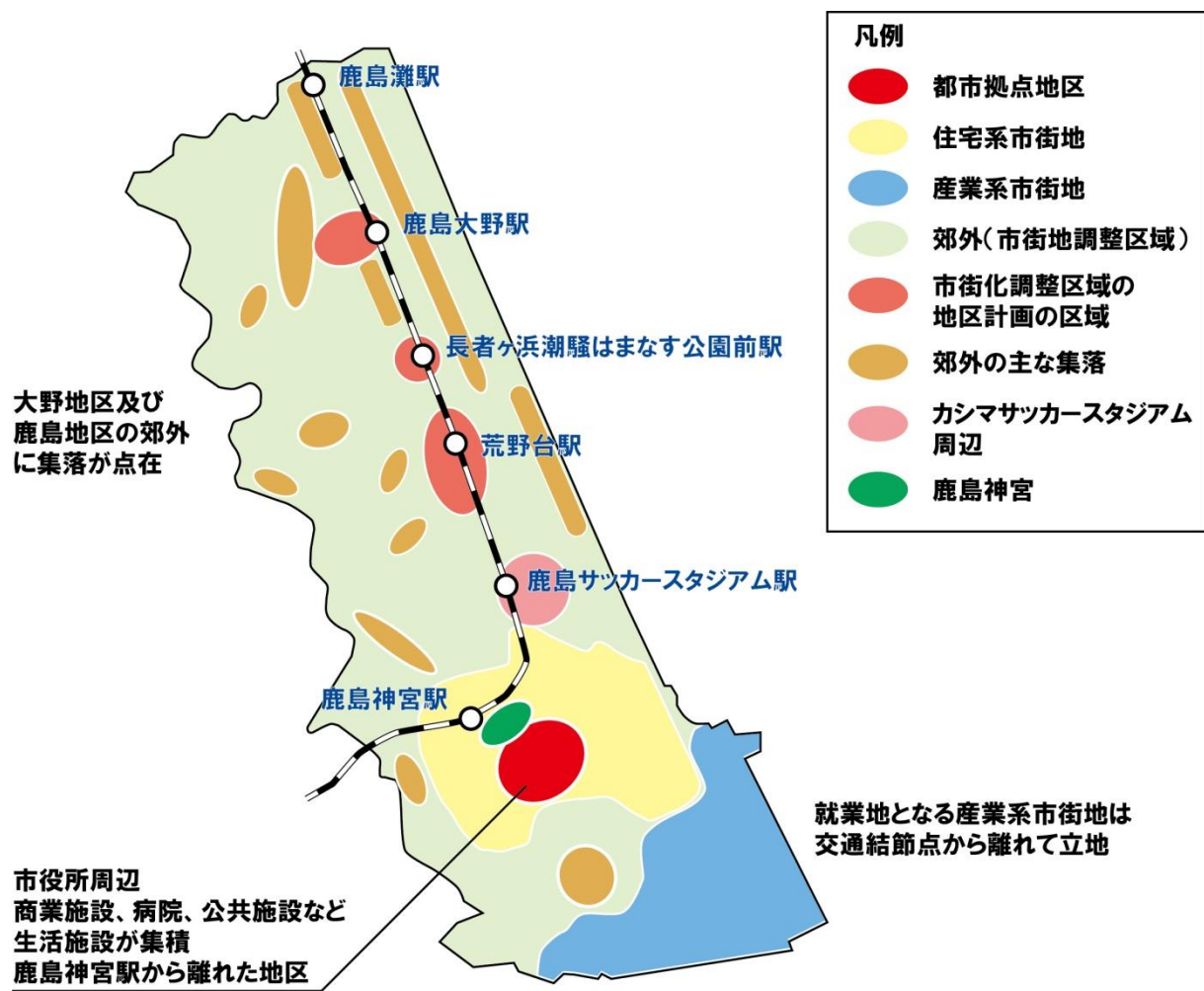


図 2-11 本市の主な土地利用分布

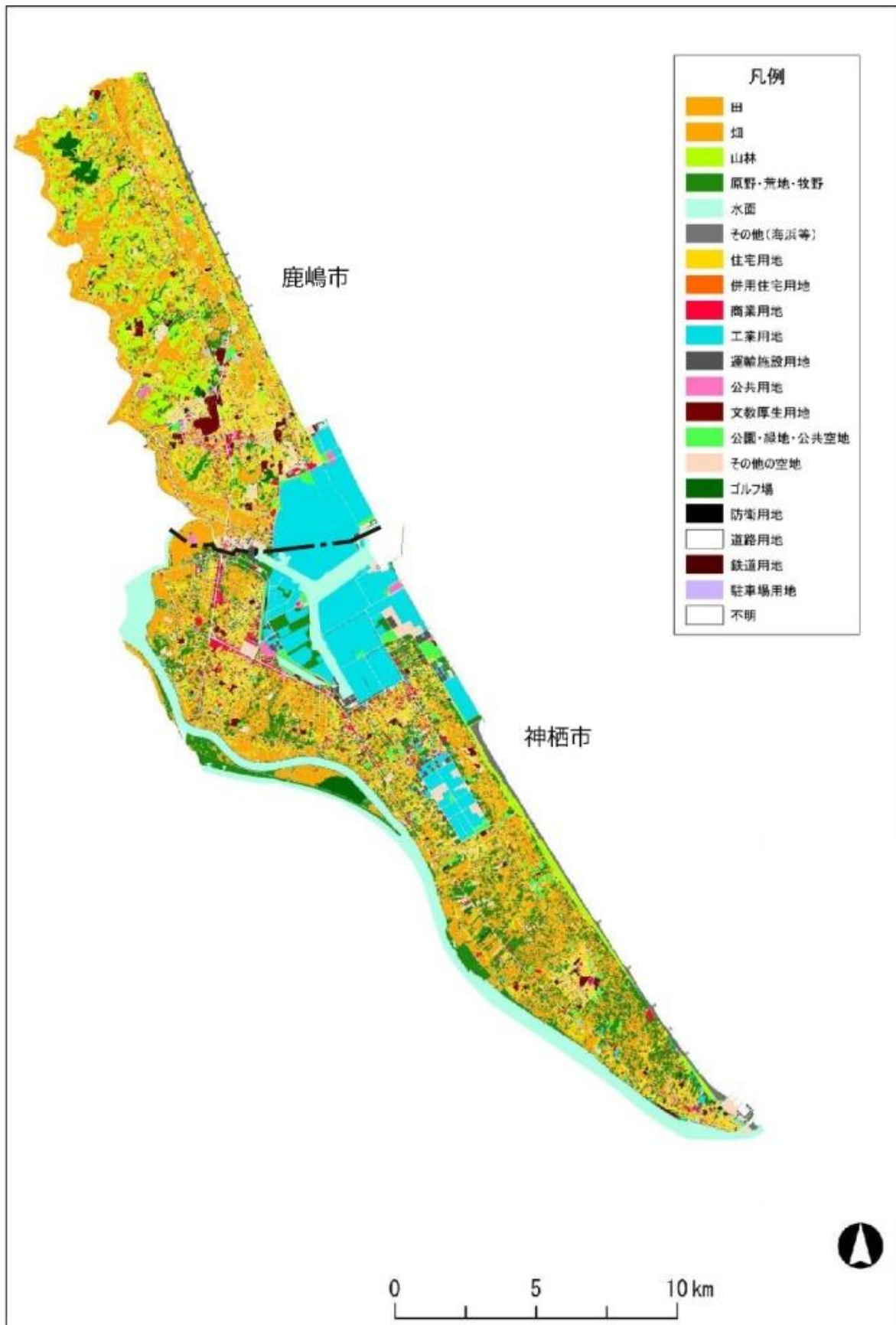


図 2-12 鹿島臨海都市計画区域^{*6}の土地利用現況（平成 22 年時点。神栖市を含む）

出典）茨城県都市計画基礎調査

(5) 市街地状況

① 市街地の広がり

本市は、市域の全域が都市計画区域^{※6}に指定され、市街化区域^{※7}と市街化調整区域^{※8}に区分されています。市街化区域は鹿島地区の市街地及び臨海工業地帯を中心に2,355ヘクタール（市域の約1/4）が指定されていますが、大野地区には指定がありません。

大野地区には、鹿島臨海鉄道大洗鹿島線の3駅の周辺に地区計画^{※9}が指定されており、市街化調整区域において都市的な土地利用を可能とする誘導施策が導入されています。鹿島地区の市街地の一部は、国勢調査による人口集中地区となっています。

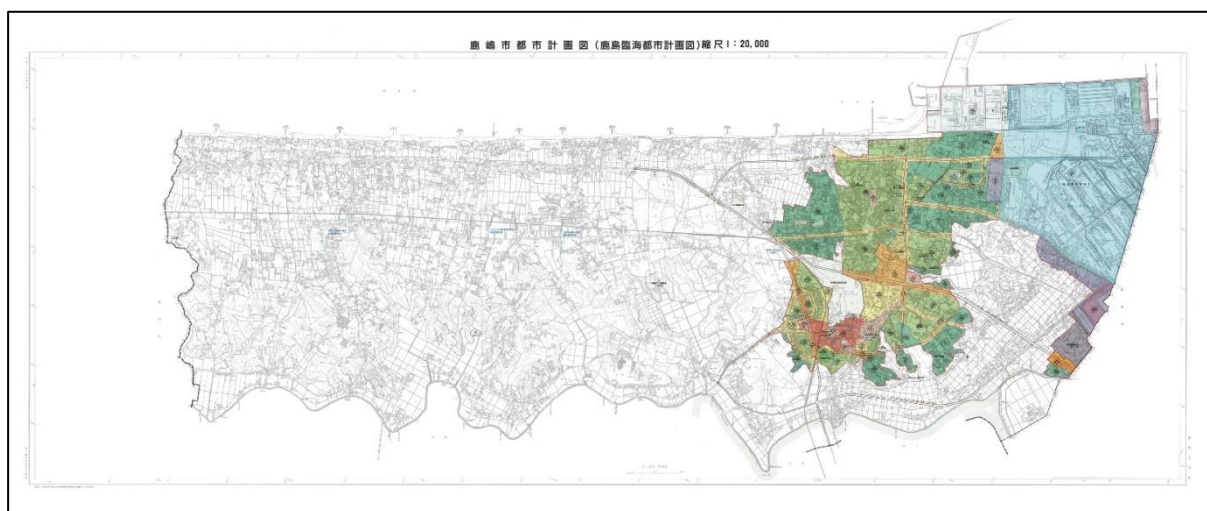


図 2-13 市街化区域の範囲（図の左側が北方向）

出典）鹿嶋市都市計画図

表 2-1 大野地区（市街化調整区域）に指定されている地区計画

地区名	面積 (ha)	決定年度 () は変更年度	指定の主な目的
鹿島大野駅周辺地区地区計画	54.0	H20 (H22)	市北部の拠点形成
はまなす公園前駅周辺地区地区計画	19.0	H20 (H21)	質の高い居住地の形成
荒野台駅周辺地区地区計画	21.3	H20 (H21)	質の高い居住地の形成

出典）鹿嶋市都市計画資料



図 2-14 人口集中地区の範囲

出典) 国勢調査

② 市民生活を支える施設の分布

市街化区域のうち、臨海工業地帯を除いた市街地部分には、鹿島神宮駅、市役所をはじめとした公的機関、大規模小売店舗をはじめとした商業施設、小山記念病院や鹿島病院をはじめとした医療機関、県立鹿島高校や私立清真学園などの教育機関といった市民生活を支える施設があります。

これらの施設には、市民のほか、近隣市の住民による利用があり、本市の市街地が市域を越えた広域的な都市サービスを提供している場所となっています。

一方、これらの施設の多くは鹿島神宮南側の市役所周辺地区にあり、広域との交通結節点となる鹿島神宮駅からやや離れています。

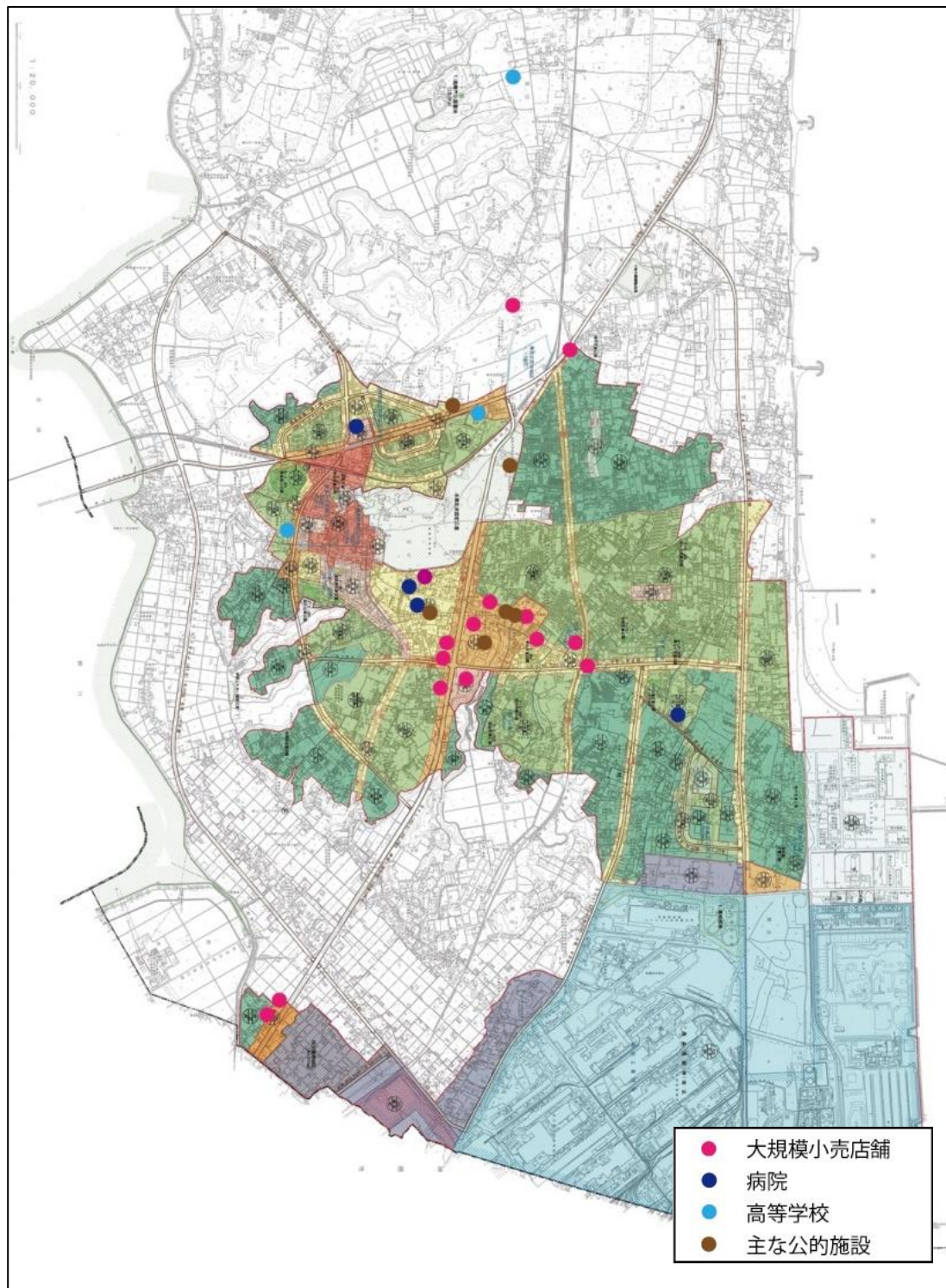


図 2-15 市民生活を支える主な施設

出典) 大規模小売店舗総覧 2016, 茨城県厚生総務課資料, 鹿嶋市勢要覧

大規模小売店舗は, 店舗面積 1,000m²以上の店舗

病院は, 県資料の「県病院一覧」に記載されている病院

主な公的施設は, 市役所, 中央図書館, 鹿嶋郵便局, 勤労文化会館, 鹿嶋警察署, まちづくり市民センターとした